



屋内のようす

一之江名主屋敷は、江戸時代のはじめに一之江新田を開発した田島家の住居です。江戸時代のはじめ、現在地に創建されたままの姿を伝えています。北と西に屋敷林（防風林）をもち、堀をめぐらした中世武家風の面影をそなえた屋敷構えです。平成元年から平成4年にかけて建物の復元修理を行い、平成10年から平成11年にかけて敷地を整備しました。

現在の主屋は、安永年間（1772～1780）、7代目当主喜右衛門のときに建てられたものです。主屋は、座敷・板の間・土間の合計276㎡（約84坪）の曲がり家です。玄関に式台を備えた名主の格式を伝えています。



庭園と濡れ縁・入側



長屋門（平成26(2014)年撮影）

東京都指定史跡・江戸川区登録史跡

いちのえなぬしやしき  
**一之江名主屋敷**